

# ハミングク



No.70

2015.2.13

## 基本理念

本院は診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を有し、また患者さんの人権を尊重した先進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人を育成する。



## 主な記事

- 年頭のご挨拶 ..... 2
- 平成26年度患者満足度調査結果のご報告 ..... 3~4
- 11月4日(火) 防火・防災訓練を実施しました ..... 5
- 災害発生時における本院の取り組み ..... 5
- 救急集中治療医学教室教授の挨拶 ..... 6
- 外科学第二教室・乳腺内分泌・呼吸器外科部門教授の挨拶 ..... 7
- 外科学第二教室・心臓血管外科部門教授の挨拶 ..... 8
- 緩和ケア週間 ..... 9
- 「2014年糖尿病週間 in信州大学医学部附属病院」を開催しました ..... 9
- かわいいお化けたちが大集合/クリスマス会開催 ..... 10
- 西2階 病棟の紹介 ..... 11
- ご意見函からの声 ..... 11
- 電話番号表・編集後記 ..... 12

明けましておめでとうございます。  
年頭にあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

病院長就任より早9ヶ月が経ちました。昨年は、長野県内だけを見ても南木曾町土石流災害、御嶽山噴火、長野県神城断層地震など多くの自然災害が発生し、信大病院の災害拠点病院としての役割と災害対策の重要性を、改めて認識させられた年でありました。



今年予定されている出来事をいくつかご紹介いたします。

まず3月には、信州がんセンター緩和ケア部門の教授が着任予定です。長野県がん診療連携拠点病院として、さらなるがん診療の充実と提供を図って参ります。

そして4月からは、外来棟前の駐車場の一部に立体駐車場を建設するための工事を開始します。工期中半年間は敷地内外で皆様にご不便をおかけしますが、10月からはより環境が整った駐車場が完成予定です。

また、平成30年春オープンを予定している「包括先進医療棟（仮称）」建設についても、着実に準備が進んでおります。今年中には関係省庁との調整もつき、運用面での具体的な話を進めていく段階となる予定です。信大病院の機能強化推進における中心的なプロジェクトになりますので、関係各所とも密に連携をとり、計画を実行して参ります。

今年は、信大病院が今後さらに発展していく、そのワンステップを進める年であると思っております。

昨今の医療を取り巻く環境は大変厳しく、消費税増税、診療報酬改定などは病院経営を圧迫する要因でもあります。しかしこのような状況は、大学病院にとって大きな躍進のチャンスともいえます。病院運営に対しての中・長期的ビジョンを示し、様々なプロジェクトを走らせ、大学病院の使命ともいえる先進医療を推進し、存在感を国内外に示して参ります。健全な財政基盤を確立し、大学病院として最高水準の医療を提供し、医療人材育成を進めて参ります。

信大病院は、引き続き県や各市町村、医師会などと連携し、大学病院の使命を果たすべく積極的に取り組んで参ります。本年もよろしく願いいたします。

平成27年1月6日

# 平成26年度患者満足度調査結果のご報告

環境整備・サービス小委員会 委員長 伊藤 寿満子

本院では、毎年「患者満足度調査」を実施しています。ご協力いただきました患者さん、ご家族の皆様には心より感謝申し上げます。ここに調査結果の概要を報告させていただきます。

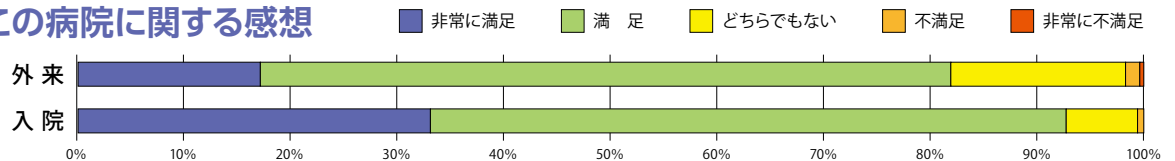
今回の調査を通じまして、皆さまからいただいた評価・ご意見（お叱り・励まし）を全職員で共有し、今後ともより良い病院づくりに取り組んでまいります。

## 調査の概要

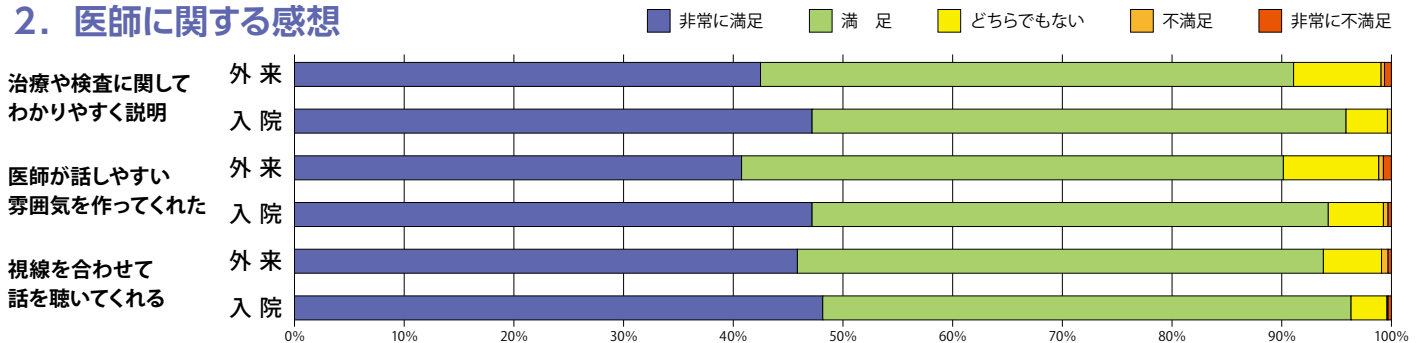
外 来	調査日（平成26年7月31日～8月1日）に来院された患者さんを対象としました。 会計・計算窓口にて委員から調査表を配布し、無記名回答方式で行いました（回収枚数659）
入 院	調査日（平成26年7月28日～8月1日）に入院している患者さんを対象としました。 病棟毎に看護師長から調査表を配布し、無記名回答方式で行いました（回収枚数370）

## 調査結果

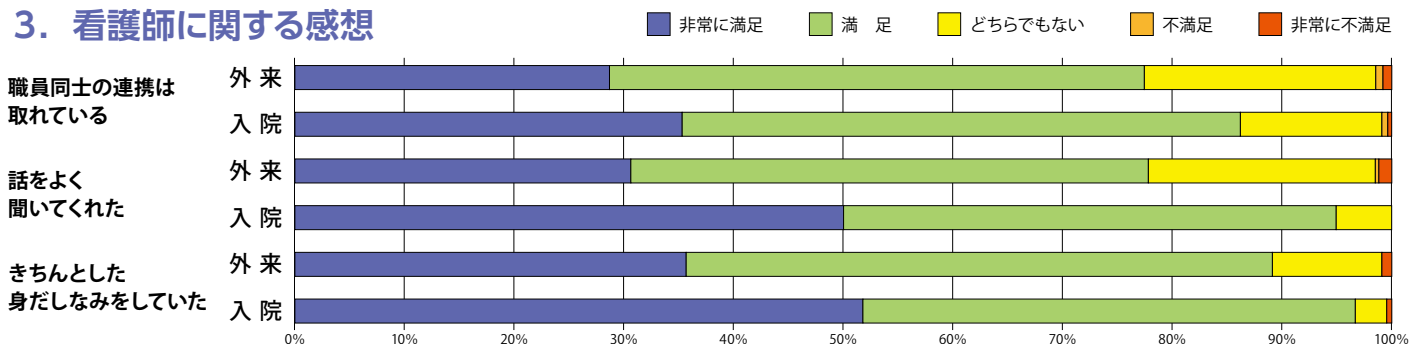
### 1. 全体としてこの病院に関する感想



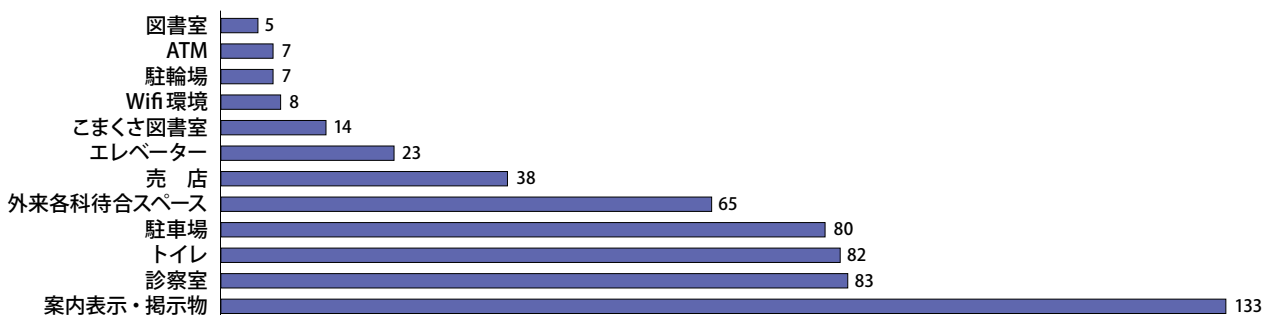
### 2. 医師に関する感想



### 3. 看護師に関する感想



### 4. 病院内の設備や施設について不満に感じているところ





## 5. 自由記述について

### 1) 良い評価（お褒めの言葉）を戴いた項目（229件）

〔主な評価・ご意見〕

- ・ 職員の親切、丁寧な対応に安心感がある。
- ・ 説明がわかりやすく、信頼がおける。
- ・ きれいに清掃がされている。

### 2) 改善を必要とする評価を戴いた項目（212件）

〔主な評価・ご意見〕

- ・ 外来での待ち時間の改善、どのくらい待つのか表示をしてほしい。予約時間を守ってほしい。
- ・ 駐車場のスペース拡大、駐車場職員の待遇向上、駐車場料金の見直し。
- ・ 主治医の交代、医師と看護師の連携不足は改善を望む。
- ・ 職員の言葉使い（ため口）は改めてほしい。
- ・ 病棟室温調整ができない。
- ・ WiFi環境の整備。

## 6. 結果全体について

医師や看護師等医療スタッフの対応・接遇に関しては高い評価をいただきましたが、外来の待ち時間対応や駐車場に関する件などについては厳しいご意見をいただきました。

今後重要性、可能性などを検討し、できるところから改善を進めていきたいと考えております。

以下に昨年度のご意見から改善に取り組んだ一例をご紹介します。

### 改善ポイント

## 採血室での待ち時間短縮に 取り組みました（中央採血採尿室）

### ～ 中央採血採尿室の改善への取り組み ～

昨年度の満足度調査で採血の待ち時間が長いのご意見を頂いておりました。大変ご迷惑をおかけいたしておりました。この点につきましていくつかの取り組みを行いグラフに示しましたように採血の最長待ち時間は、昨年度に比べて平均20分程短くなってきております。これまでにやってきた改善策をご紹介します。

#### 取り組み 1

採血ブースと採血担当者を  
増やしました。



午前中は、常時8ブース稼働できるように整備しました。

#### 取り組み 2

採血・採尿受付を  
見直しました。



採血・採尿受付機を更新し、2台から3台に増やしました。できるだけ円滑に進むように、混雑時には医事課のスタッフがご案内しております。

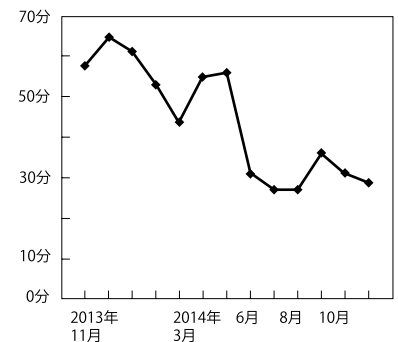
#### 取り組み 3

採血・採尿受付の  
先行受付を始めました。



毎朝、ホスピタルモールで再診受付をお待ちの患者さん20名を対象に採血・採尿受付の先行受付を行っております。採血受付の長い行列が解消されました。

採血待ちの最長時間の平均（月別）



中央採血採尿室がさらに利用しやすくなるように、これからも改善していきたいと思っております。ご意見・ご要望がございましたら、遠慮なくご意見箱にお寄せください。

# 11月4日(火) 防火・防災訓練を実施しました



本院では、災害発生時の患者受け入れ態勢確認や災害への意識向上のために、本院外来診療棟1階を主会場に、防火・防災訓練を実施し、地域住民や医学部保健学科の学生、教職員が参加しました。

丸の内消防署の太田署長による講演会に引き続き、参加者は煙道体験と初期消火訓練を行いました。午後4時からは災害対策本部設営訓練と自衛消防団初動訓練、多数傷病者受入訓練を実施しました。今回は直下型地震が発生し、病院機能が制限された状況を想定し、実際の災害時と同じように災害対策本部の設営、

入院患者の避難誘導、院内で発生した火災の初期消火活動などを行いました。

多数傷病者受入訓練では、医師、看護師に加え地域住民や学生も参加しました。地域住民や学生の一部は被災した傷病者役となり、トリアージを受けていました。また、多くの学生が患者搬送に参加し、外来棟玄関からトリアージエリアまで患者搬送にあたりました。

訓練終了後、病院長からは「多くの職員が協力してくれてありがたい。今回の訓練で様々な問題が認識されたと思うが、それらを集約して改善していきたい」との講評がありました。続いて、太田署長より「大勢の職員が参加されていて感心しました。模擬患者で参加された方の声も集めてみるといいと思う。訓練の目的は成功ではなく、問題に気づくことです」との講評をいただきました。

## 災害発生時における本院の取り組み

### 御嶽山噴火災害時の活動

本院は、9月27日(土)正午ごろに発生した御嶽山噴火に伴い速やかに院内災害対策本部を設置し、本災害による傷病者の受入態勢準備と情報収集を行いました。受入態勢としては、休日にも関わらず、院内関係者155名が集まり、重症4名、中等症2名、軽症1名の計7名を受け入れました。

28日の夕方からは、負傷者受入に関する記者会見を実施し、本院の現状と受入患者の経過等を報告しました。会見は「長野県内の災害拠点病院としての機能を最大限発揮すべく、今後も職員一丸となって対応していきます」との病院長の挨拶から始まり、今村高度救命救急センター長から、受入患者の状況や経過の報告がありました。29日以降も患者受入要請の可能性があるため、通常の診療を行いつつ、患者受入態勢を継続する旨の説明がありました。

### DMATの活動について

本院には、医師7名、看護師15名、ロジスティクス10名、合計32名のDMAT隊員が所属しています。

御嶽山噴火に伴う災害では、医師2名、看護師2名、ロジスティクス3名が災害発生後直ちに現地へ向かい、活動拠点本部である長野県立木曽病院で他病院の

DMATと協力しながら拠点本部運営や被災者の治療にあたりました。その他のDMAT隊員も、本院に設置された長野県DMAT参集拠点本部で県内外から集まった13チームの配置調整、情報収集を行ったり、院内災害対策本部で本部運営や派遣メンバーのサポート、関係各署との情報伝達等の任務に就きました。

9月29日(月)正午には、全DMAT隊員が帰院し、スタッフから温かい拍手で迎えられました。



11月22日(土)22時8分頃長野県北部を震源とした震度6弱の地震発生時には、速やかに院内災害対策本部を設置し、DMAT派遣準備を整えました。間もなく、長野県からDMAT出動要請があり、医師2名、看護師2名、ロジスティクス3名が直ちに市立大町病院に向かい、災害拠点本部運営や避難所の支援を行いました。

被災された皆さま、ご関係者の方々、謹んでお見舞い申し上げます。

# 救急集中治療医学教室教授の挨拶

救急集中治療医学教室教授 今村 浩

平成26年9月1日をもちまして救急科長ならびに高度救命救急センター長、集中治療部長に就任しました今村です。どうぞよろしくお願いいたします。私は南信の出身で、県外の大学を卒業し市中病院に数年間勤務した後、長野県に戻って信大病院で循環器を中心に内科診療に従事し、平成13年から救急医療、集中治療に携わってまいりました。

救命救急センターは脳卒中や急性心筋梗塞、多発外傷、熱傷など生命の危機を伴う患者さんや、複数の診療科領域にわたる重症救急患者さんを24時間体制で受け入れる施設です。高度救命救急センターはこれに加えて特に広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾患も受け入れる施設であり、国内に現在32施設があります。

救急搬送される患者さんは増加傾向にあり、また最近では県内でも大規模災害が発生するようになりました。当センターはこれらに対応すべく「長野県の救急医療・災害医療の最後の砦」としての役割を果たしていきます。重症救急患者さんの救命のためには治療開始までの時間が重要です。当センターはドクターヘリとドクターカーの運用により、傷病発生現場からの早期診療開始にも努めています。

高度救命救急センターは南中央診療棟の1階に位置しています。南面に救急車で来院された患者さんならびに時間外救急患者さんのための入り口と診療スペースがあり、その奥に集中治療室、熱傷治療室、冠動脈疾患治療室、脳卒中治療室等からなる入院病床が計20床あります。このほか、状態が安定した患者さん用の病床が一般病棟に9床あります。救急患者さんに対し

ては専従の医師と看護師が各科専門医師と連携をとりながら治療にあたります。またこのほかに薬剤師、感染症専門医、理学療法士、作業療法士、言語療法士、臨床工学技士、ソーシャルワーカー、事務職員など、多くの職種のスタッフが協力しながら患者さんの診療にあたっています。

突然のけがや急病で救命センターに運ばれてきた患者さんやそのご家族はさぞかし大きな不安を抱えていると思います。私たちは、多くのスタッフの力を結集して、救急患者さんの命が救われるだけでなく、後遺症が少しでも減るように、1日も早く社会復帰できるように努めていきます。また、患者さんによりその社会環境や人生観は様々です。私たちは患者さんや家族の方のご意向を尊重し、単に医学的に正しいだけでなく、患者さんにとって最良の医療を提供したいと考えております。もし診療についてご希望等ありましたらスタッフに遠慮なく声をかけていただきたく思います。

今後も地域の方の生命と健康を守るべく、質の高い救急医療を提供してゆく所存です。よろしくお願いいたします。





# 外科学第二教室・乳腺内分泌・呼吸器外科部門教授の挨拶

外科学第二教室・乳腺内分泌・呼吸器外科部門教授 **伊藤 研一**

皆様こんにちは。2014年11月より「信州大学医学部外科学第二教室 乳腺内分泌外科・呼吸器外科部門」の教授を拝命致しました伊藤と申します。宜しくお願ひ申し上げます。

私達の部門は、医学部附属病院では「乳腺・内分泌外科」と「呼吸器外科」の二つの診療科を担当いたします。乳腺・内分泌外科では、主に乳がん、甲状腺腫瘍（がんおよび良性の腫瘍）、副甲状腺腫瘍を、呼吸器外科では主に肺がんや縦隔の腫瘍を診療しています。本邦の2014年のがんの罹患数の予測では、男女合わせた数で肺がんが2位、乳がんは4位と予測されており、これら二つのがんは本邦のがんの中でも大きな比重を占めており、今後も新しい治療が開発され、専門的な医療の必要性が高まるものと考えられます。一方甲状腺がんは、罹患数の多いがんではありませんが、全国的には専門とする診療施設が比較的少ない腫瘍です。これらのがんに対して、本邦および世界で標準的とされております医療を、常に地域の皆様に提供できるように、スタッフ一同で日々研鑽に励みたいと思ひます。

手術を行う外科領域では、患者さんの身体への負担が少ない低侵襲手術が盛んになってきており、呼吸器外科では内視鏡手術やロボット支援下手術を行っております。一方で、時には複数の診療科の協力が必要な拡大手術と呼ばれるような大きな手術が必要なこともあります。長野県のがん診療連携拠点病院として、地域の

皆様に安全な外科医療を提供できるように努めたいと思ひます。

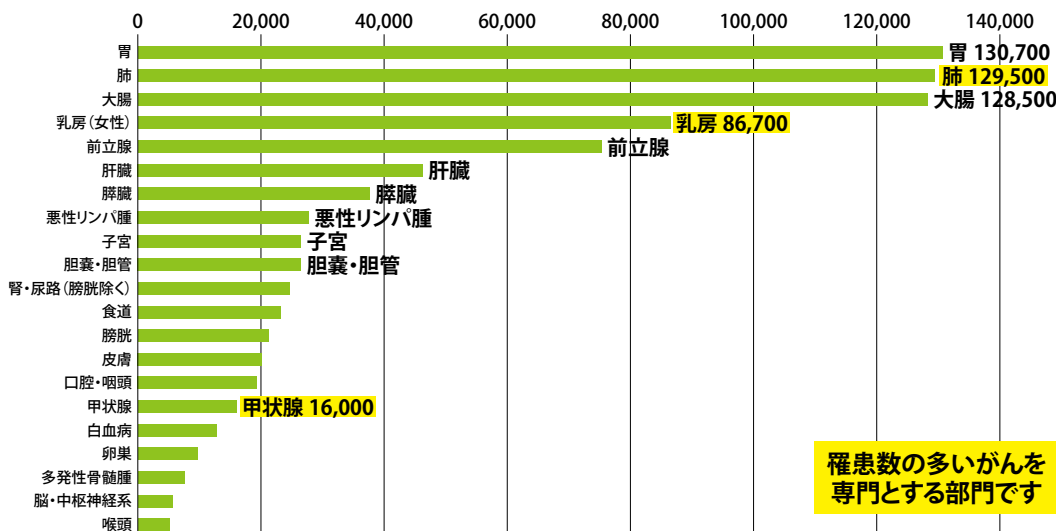
また、がんの治療は2000年以降急速に変わってきました。おそらくこれからの10年でも大きく変わっていくことが予想され、それぞれのがんで個々の患者さんに最も効果が高いと考えられる治療を行う「がんの個別化治療」が推進されていくものと推測されます。大学病院として地域の皆様に高度な医療を提供すると同時に、「がんの個別化治療」を推進できるように医学研究にも励みたいと思ひます。

一方で、大学病院のもう一つの大きな使命として、将来の医学を担う人材の養成、すなわち教育があります。医学部学生、研修医の教育におきましては、是非皆様の御協力を頂きますようお願い申し上げます。

医療は年々進歩しております。地域の皆様に信頼して受診して頂ける診療部門であり続けられるように、私自身研鑽を続けたいと思ひます。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。



本邦の2014年のがん統計予測(男女計)



罹患数の多いがんを専門とする部門です

(国立がん研究センター がん対策情報センター ganjoho.jp)

# 外科学第二教室・心臓血管外科学部門教授の挨拶

外科学第二教室・心臓血管外科学部門教授 岡田 健次

平成 26 年 11 月 1 日付けで、外科学第二教室・心臓血管外科学部門教授に就任しました。神戸大学医学部を昭和63年に卒業し、国内外留学以外は兵庫県内の関連病院で仕事させていただいておりますので、この信州の地は私にとってか



なり新鮮です。就任直後より緊急手術をはじめとし大変忙しく働かせていただいておりますが、病院関係の皆様方、医局の先生方のご協力により日々前進することができ大変感謝しております。

心臓血管外科の手術成績は近年格段に向上し短期成績のみならず遠隔期の生活の質（QOL）を追求するものになりつつあります。私が神戸で実践してきた手術に関わる主な特徴を以下に示します。

## 1) 虚血性心疾患：冠動脈病変に起因する心臓病

心臓手術の代表である冠動脈バイパス術において、より低侵襲である人工心肺を使用しない心拍動下手術（オフポンプバイパス術）を80%適応することで、脳梗塞などの術後合併症、輸血量、感染症を軽減し入院期間短縮を可能にしております。心停止下でのバイパス手術と全く同等のグラフト開存率を得てきました。

## 2) 弁膜症疾患：心臓逆流防止弁の狭窄、閉鎖不全に起因する心臓病

その代表である僧帽弁閉鎖不全症に対しては、自己弁を温存する形成術（弁を修繕する）が主体で90%以上の確率で施行して参りました。人工弁（機械弁、生体弁など）を使用した場合にはワーファリン内服による合併症、人工弁感染など遠隔期の問題が懸念されますが、形成術の場合ほぼ回避できます。若い患者さんに対しては小さな手術創で行う低侵襲心臓手術（MICS）も施行して参りました。また大動脈弁形成術（自己弁温存大動脈基部置換術）はより高度な技術を要求されますが、いままでの経験を十分に生かし積極

的に施行してゆきたいと思っております。

## 3) 大動脈疾患：大動脈瘤、大動脈解離が主な対象

大動脈手術は主要臓器（脳、脊髄、腹部臓器など）に血液を供給する血管を巻き込んでいるため臓器障害をきたすことなく人工血管置換術を行う必要があります。大動脈弓部全置換術（図1）は得意とする手術であり、予定手術での死亡率は冠動脈バイパス術同様1%以下で遠隔成績の安定した優れた治療法です。ただ大動脈瘤治療対象になる患者さんの20%程度は80歳以上であり、さらに肺気腫をはじめとする臓器障害の高度な方には、低侵襲治療であるステントグラフト治療（図2）が適しており、これは当科ではすでに積極的に導入されてきました。患者さんのリスクを的確に判断し、よりよい治療を目指しております。



図 1



図 2

## 4) 重症心不全：

従来、内科、通常の外科手術では対応困難な心不全患者さんに対し、従来体外式補助循環装置が使用されてきました。体外式補助循環装置はリハビリ可能ですが退院することはできませんでした。体外式補助人工心臓の経験から当院でも埋め込み型補助人工心臓の申請中でもなく実施可能となる予定です。自宅で移植待機可能となり生活の質（QOL）は格段に改善します。積極的に推進してゆきたいと思っております。

また信州大学にはドクターヘリがあり、緊急を要する患者さんに、より迅速な対応が可能です。あらゆる手術要請に対応し長野県の循環器外科治療をさらに向上、安定してゆきたいと思っております。よろしくお願いたします。



## 緩和ケア週間

ホスピス緩和ケア週間（平成26年10月5日～11日）にあわせて、緩和ケアを身近に感じてもらうため、初めて当院で『緩和ケア週間イベント』を開催しました。



イベントはホスピタルモールとがんサロンひまわりで行いました。がん闘病中の患者さんや緩和ケアを受けている患者さんの体験記・イラスト・メッセージ・絵画写真の展示を中心に、ミニ音楽会、講演会「キレイは生きる力になる」、ミニ勉強会「触れるケア」なども行いました。

期間中、入院されている方、外来受診に来られた方、そのご家族、職員など様々な方に寄っていただき、当院に受診している身近な患者さんのメッセージに心うたれる方が多くいらっしゃいました。ご自身が、がん体験者である方から、「当時の自分の出来事とダブリ涙を流して読ませていただきました。がんを体験して自分のまわりの人たち、人生観などいろいろ得るもの

がたくさんありました。『ひとりじゃなかった』『ひとりじゃない』『感謝』の3つの言葉には奥深い意味があると思います。今元気に職場で頑張っている私は“生かされている”ということが実感できる毎日です」と感想をいただきました。作品作りに協力していただいた皆さんの「伝えたい」気持ちが伝わり、とても温かい気持ちになりました。

作品の一部はがんサロンひまわりで見ることが可能です。平日午前に限りますが、よろしければお立ち寄り下さい。イベントを通して改めて、緩和ケアの源は誰でもいつでもでき、受けられるケアなのだ実感しました。隣にいる人を想えば…



## 「2014年糖尿病週間 in 信州大学医学部附属病院」を開催しました

11月14日は世界糖尿病デー、11月10～14日は糖尿病週間でした。信大病院では5年目になる催しが院内で行われました。世界糖尿病デーには松本城がブルーライトアップされますが、信大病院内では糖尿病週間中にブルーライトのツリーが毎年飾られます。ツリーのあるホスピタルモールには、糖尿病に関するパネル展示があり、様々な情報が展示されました。

糖尿病サポートチームによる糖尿病の一般的な内容から、認定看護師による「移植」「遺伝」「認知症」などの専門的なことまで、興味深い展示になったと思います。また、世界糖尿病デーには、無料血糖測定を行い、約100名の方が体験し、血糖測定の簡便さに驚きながら、自身の値を確認していきました。

医師による健康相談では、日頃の健康に関する不安を聞いてもらい、アドバイスを受けて笑顔になる方々が大勢いました。

市民公開糖尿病講演会は、糖尿病・内分泌代謝内科の駒津教授の講演や、理学療法士による運動療法の講演があり、大勢の市民の皆様にご参加いただきました。運動は、チェアエクササイズという椅子に座ったままできる方法を、参加者全員で実践しました。参加者からは肩こりがすっきりした、体が温まったなどの声が聞かれ、運動の大切さと楽しさを感じてもらえたのではないのでしょうか。

来年も糖尿病デーのイベントを行います。今年参加できなかった方、興味をもってくださった方、ぜひお待ちしております。



# かわいいお化けたちが大集合

東4階病棟 所 真由美



10月31日小児科病棟にてハロウィンが開催されました。いつもより30分早めに夕食をとり、子どもたちはそれぞれ小さなかawaii魔女やお化けに仮装し、また医師や看護師たちも子供たちに負けるものかと、こわい魔女や気持ち悪い？魔女、カボチャなどに身を包み、お互いの仮装した姿を指差しながら笑顔の中、ハロウィンがスタートしました。

東4階病棟の廊下の照明を少し落とし、薄暗くしてムード満点。かわいい魔女やお化けに仮装した子供たちや、スタッフが婦人科の患者さんの病室を1部屋ずつ「トリック・オア・トリート（Trick or treat. お菓子をくれないと、いたずらしちゃうよ）」と唱えながら訪ねました。事前に準備してお菓子の袋を、婦人科の患者さんたちにもご協力をいただいて、病室にまわってきた子供たちに渡していただきました。病棟の中を一周し、最後は病棟のエレベーターホールに集合し記念撮影。それぞれの姿にひたりながら、何枚も何枚もシャッターを押している姿がありました。子どもたちも親も婦人科の患者さんたちも、笑いや笑顔が絶えないハロウィンパーティーは終了しました。



# クリスマス会開催

東4階病棟 大月 康代



2014年12月13日に小児科主催によるクリスマス会が4階デイルームにて行われました。子供たちの出し物では「やさしさに包まれたなら」の演奏とアナと雪の女王より「let it go」の歌を披露していました。幼児は手作りの衣装を身にまとい、大勢の観客の前で恥ずかしそうにしながらも、小学生と一緒に出し物に参加しました。一生懸命練習した成果が出ており、とても素晴らしかったです。その他にもリハビリ部門・放射線科・薬剤部・看護師・医師からの出し物がありました。ギター演奏やマジック、大きなシャボン玉を作るなどどれも趣向を凝らした出し物ばかりで、子供たちもとても楽しんでいました。特に医師の出し物

は、アナと雪の女王をメインとし、映像やダンスを取り入れたとても楽しい劇になっていました。子供たちだけでなく、保護者の方や産婦人科の患者さんも喜んでくださり、クリスマス会が終わった後も、素晴らしい劇だったという声が多く聞かれました。また、外部のマスコットキャラクターも来てくださり、クリスマスプレゼントを子供たちに配っていただき、喜んでる姿がみられました。

この場をお借りしまして、プレゼントの提供や寄付に御協力いただきました各部門、団体の皆様、クリスマス会を盛り上げて下さった参加者の皆様、御協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。





## 西2階 病棟の紹介

西2階病棟は、消化器外科、特殊歯科・口腔外科、放射線科、救急科、信州がんセンターの5科混合病棟です。食道、胃、腸、肝臓などの消化器や歯、舌、顎、歯肉など口腔内の手術を受ける患者さん、化学療法や放射線治療を受ける患者さん、高度救命救急センターでの急性期治療から移行してくる脳梗塞や交通外傷の患者さんなどが入院しています。病気の種類が多いので、病棟というより、ひとつの病院のような状況です。忙しい日が多いですが、各診療科の医師を中心に、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師など様々な職種が情報共有し、連携しながら、患者さんにとって最良の医療を提供できるように努力しています。

また、在宅酸素、在宅中心静脈栄養、胃ろうの管理、吸引など、在宅での療養において医療

的な処置やケアを必要とする患者さんが多いため、地域の医療職と連携する機会もあります。医療ソーシャルワーカーとともに、患者さんの思いが反映できるような退院支援を心がけ、社会や家庭への復帰のお手伝いをしたいと考えています。多くの医師が集まる病棟であり、スタッフが若いので活気があります。患者さんが、心身ともに穏やかに入院生活が送れますようにと願い、みんな笑顔で頑張っています。



### ご意見函からの声

多くの方からお問い合わせがありました外来患者用立体駐車場について、ご紹介します  
**外来患者用立体駐車場の建設が決定!**  
 平成27年10月よりOPEN ~より安全・便利な駐車場に~

当院の外来者駐車場は以前より駐車台数が不足しており、長時間の駐車待ちにより、患者さんに対して大きなご負担をかけております。また、国道の渋滞を引き起こす原因にもなっており、地域住民の皆様にもご迷惑をおかけしている状況です。これらを解消するために立体駐車場建設工事を含む外来者駐車場整備を行うこととなりました。

現在、病院の駐車場はいずれも平面で、第1駐車場は476台、第2駐車場88台、身障者用8台の計572台です。平日の午前中は駐車場に入ろうとする車が国道まであふれています。新しい立体駐車場は鉄骨2層3段で第1駐車場南東側に建設し、これにより総駐車台数は計859台（うち身障者用14台）と、台数は1.5倍に増加し、現在の渋滞が解消できる見込みです。また、災害時には診察や避難の場所としても使用できます。工事期間は平成27年4月から9月までの半年間になります。工事期間中は駐車場が不足するため今まで以上の渋滞が予想されます。

信大病院では平成26年10月から病院正面玄関に路線バス（北市内線西まわり）のバス停を移動しております。工事期間中は路線バスなどの公共交通機関のご利用をお願い致します。





# 電話番号表 (市外局番 0263) 代表番号：35-4600

## 【診療科外来】

南 1 階	小児科	37-2776	南 3 階	眼科	37-2789	リハビリテーション部(理学療法)	37-2836
	遺伝子診療部			耳鼻いんこう科	37-2791		
	先端心臓血管病センター			産科婦人科	37-2793	リハビリテーション部(作業療法)	37-3399
	循環器内科			皮膚科	37-2778		
	整形外科			消化器外科		37-2781	医療福祉支援センター
	脳神経外科			移植外科	37-2783		
総合診療科	小児外科	37-2831	胸痛センター	37-2803			
南 2 階	呼吸器・感染症内科				37-2768	北 2 階	呼吸器外科
	消化器内科	乳腺・内分泌外科	37-2787	移植医療センター			37-2930
	血液内科	麻酔科蘇生科					
	腎臓内科	形成外科	37-2846	移植医療センター			37-2930
	脳神経内科	精神科					
	リウマチ・膠原病内科	子どものこころ診療部	37-2787	移植医療センター			37-2930
糖尿病・内分泌代謝内科	泌尿器科	37-2796			移植医療センター	37-2930	
内科総合外来	特殊歯科・口腔外科		37-2796	移植医療センター			37-2930
放射線科							

## 【医事課】

収 入 係	37-2763
入 院 係	37-2759
外 来 係	37-2757

## 【医療支援課】

患者サービス係 (診断書・労災)	37-2762
---------------------	---------

## 【病棟スタッフステーション】

西病棟		階	東病棟	
【先端心臓血管病センター】			糖尿病・内分泌代謝内科	37-2769
循環器内科	37-2777	8階	乳腺・内分泌外科	
心臓血管外科				
脳神経内科、脳神経外科	37-2774	7階	消化器内科、血液内科	37-2771
リウマチ・膠原病内科			腎臓内科	
皮膚科	37-2788	6階	【呼吸器センター】	37-2784
泌尿器科			呼吸器・感染症内科	
			呼吸器外科	37-2790
消化器外科、消化器内科	37-2782	5階	眼科、脳神経外科	
移植外科、小児外科			麻酔科蘇生科	37-2794
産科婦人科	37-2772	4階	小児科	
新生児科(NICU・GCU)			婦人科	37-2786
精神科	37-2775	3階	整形外科	
子どものこころ診療部				
放射線科、消化器外科、移植外科	37-2780	2階	耳鼻いんこう科	37-2792
小児外科、特殊歯科・口腔外科、RI 信州がんセンター、救急科			形成外科	



### ☆相談窓口☆

受付時間：月～金（祝除く）  
9時～16時

くすりの相談室	37-3013	地域医療連携支援室	37-3370
総合医療相談室	37-3370	難病相談支援センター	34-6587
がん相談支援センター	37-3045	難聴児支援センター	34-6588
セカンドオピニオン外来	37-3111	肝疾患診療相談センター	37-2922
先端細胞治療センター (分子細胞診療室)	37-3220		

## 編集後記

昨年は御嶽山噴火、長野県北部を中心とした長野県神城断層地震と災害の多い年でした。被災された皆さま、およびご関係の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

今号の表紙は、12月1日に行われた信大病院ファンタスティックイルミネーション点灯式にて、病棟前の大きなヒマラヤ杉が12,000球の5色（赤・黄・緑・青・白）LEDライトで着飾り、クリスマスシーズンの訪れを告げるクリスマスツリーになったところを撮影したものです。1月末まで点灯しておりましたが、皆さまご覧になられたでしょうか。

(広報室委員 太田 貴志)

あなたの自慢の写真で「ハミング」の表紙を飾りませんか？ 写真を募集しております！

お名前・写真のタイトルをご記入の上、  
[ctc@shinshu-u.ac.jp](mailto:ctc@shinshu-u.ac.jp) へお送りください。  
写真は2MB以上5MB未満のjpgデータ

### 【お問合せ・応募宛先】

信州大学医学部附属病院 総務課 卒後臨床研修係  
TEL：0263-37-3050

※応募はメールのみ受付